

第二回

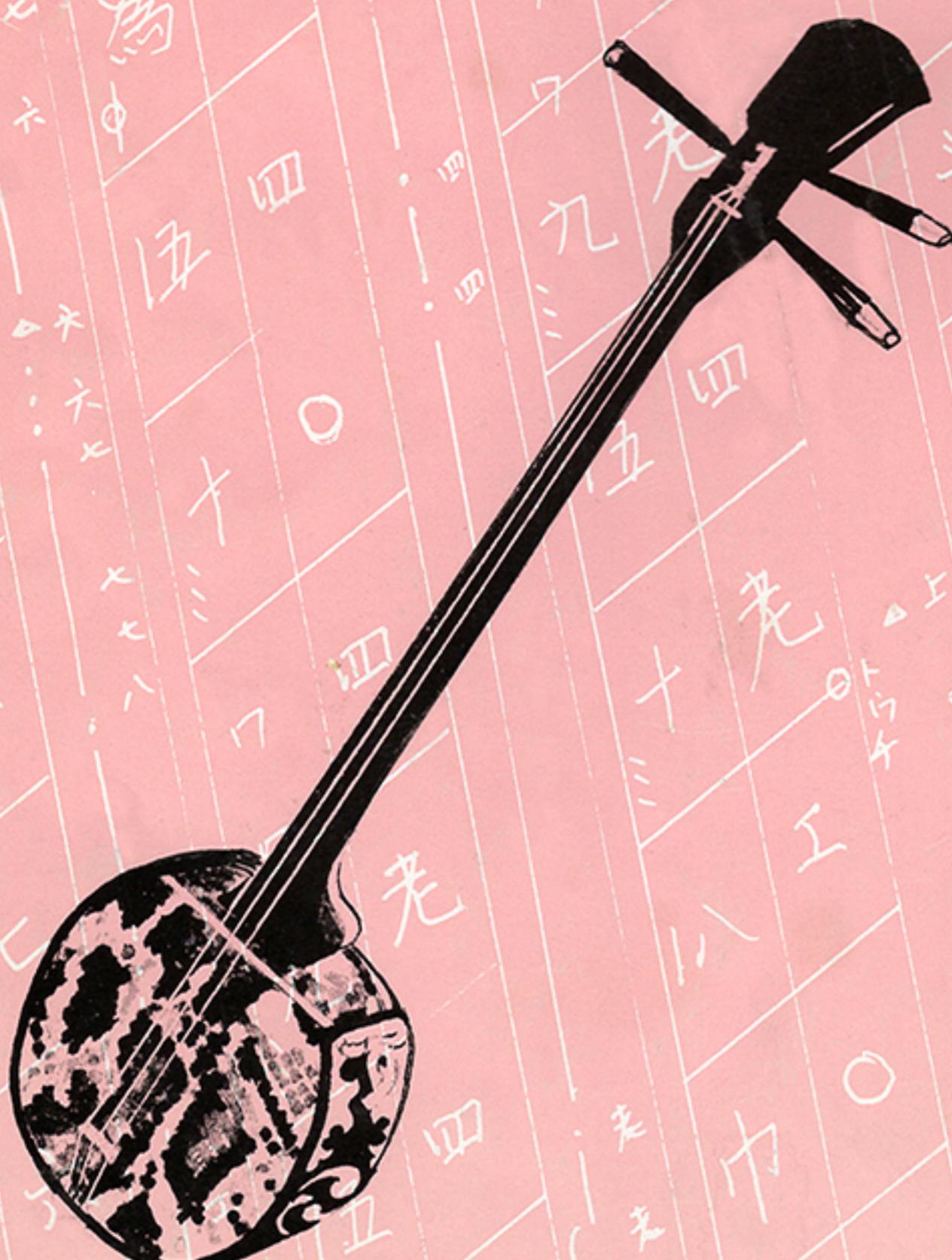
琉球古典音楽の会

■会場・国立劇場演芸場 03-165-741

開場・午後5時

日時・平成20年3月23日(金)

開演・午後5時30分



ごあいさつ

野村流古典音楽保存会 関東支部長 仲宗根八重子



陽春うららかな好季節となりましたが、朝夕は肌寒いこの夕べ、お忙しい中をお越しいただきまして誠にありがとうございます。

第一回琉球古典音楽の会から三年、皆様の暖かいご支援とご協力により私共は本日第二回琉球古典音楽の会を開催するはこびとなりました。ここに心から感謝申し上げる次第でございます。

さて、今回は沖縄芸能研究の権威矢野輝雄先生に司会をお願い致しまして、演目を第一部及び第二部を古典音楽、第三部琉球舞踊の三部構成としてご鑑賞いただく所存でございます。

まず、第一部は全員齊唱のこてい節で幕明けし、本調子の独唱曲四番をお届けします。特に伊野波節は生糸のヤマト人の歌で、その振（ふい）の微妙な旋律の捌きぶりや歌切（うたじり）の思入の表現・おさめ方などをしかとお聴き届けいただければと存じます。あと三番のうち二番は入門六年の中堅が这一年間の研鑽の成果を披露します。一部最後は歌三味線・箏とともに本支部のベテランが相務めます。じっくりお聴き下さい。

第二部は天川節を特別出演者を含む幹部クラスで齊唱し、前半は当支部男性により二揚五曲を柱に六曲をお届け致します。これらの曲は独唱曲の花で、広く人口に膾炙しております。それだけにご鑑賞いただく方々の耳もこえ、より高尚になつております。この二年間の

研鑽でどこまで聴く人の心に迫ることができますか、精一杯の舞台をじっくりご鑑賞のうえ、ご高評、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

二部後半は師範による独唱で、二揚二曲、本調子三曲で構成します。はじめに二揚情節の下出し仲風節と同述懷節を仲宗根善久師と安田慶善師でお届けします。次いで本調子の名曲仲村渠節と赤田風節を当保存会本部より特別出演の歌三味線上地源照・安田慶善両師、箏伴奏宮城文師でしつとりとお聴かせします。最後を当支部総代仲宗根善久師に本花風節でしめさせていただきます。二部後半のこの五節をじっくりとご鑑賞のほどお願い申し上げます。

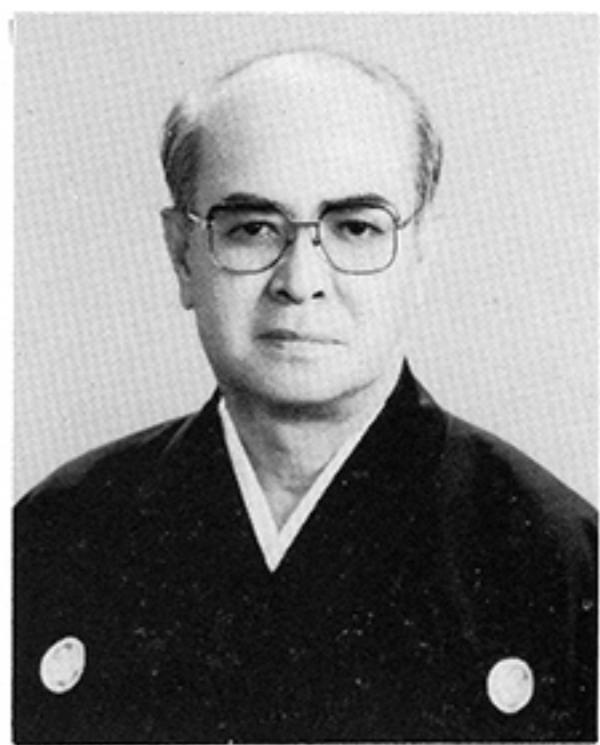
第三部は琉球舞踊六番をお送りします。琉舞界の第一人者志田房子さん、川田功子さん、新進の宮城洋子さん、関りえ子さん、竹富民俗芸能の前新要さん等によるバラエティに富んだ踊りをたっぷりご鑑賞下さい。以上一部二部三部で都合二時間五〇分ほどのおつきあいでございます。

最後に、名調子で舞台と観客のつなぎ役を務められる矢野輝雄先生、縁の下の力持としてすばらしい舞台づくりを演出する平島東憲先生とスタッフの皆さん、制作その他に献身的なご協力をいただきました志賀山葵先生、そして琉球舞踊、笛、太鼓、箏で贊助出演いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

私共は、今後一層の努力を重ねて心技の向上を図り、ご期待におこたえする所存でございますれば何とぞ、最後までごゆっくりご鑑賞のうえ、ご高評、ご鞭撻たまわりますよう心からお願い申し上げます。

祝 辞

野村流古典音楽保存会 会長 上地源照



このたび野村流古典音楽保存会関東支部の第二回発表会を開催されるにあたり、会を代表してお祝いのご挨拶を申し上げます。

さて、沖縄の芸能の歴史は古く、沖縄文化の中でも異彩を放つほど内容が豊かあります。

わたしたちの祖先が創造

した文化は、風土の人情味あふれたすばらしいものばかりです。とくに芸能は洗練された無形の文化財として今日まで継承された優雅で芸術性豊かな精神文化であります。

沖縄の芸能の主軸ともいえる古典音楽は十六世紀の堪水親方（幸地賢忠）によつて確立され、以後多くの樂聖によつて継承改革が加えられて来ていますが、野村流の祖である野村安趙が編集した（御拝領工工四）欽定樂譜は古典音樂の画期的な樂典であります。

この樂典とともに声樂譜付野村流工工四が編集発刊され野村流の奏法が確立、普及に大きく寄与し今日の隆盛をみるに至っています。本場を遠く離れ研修の条件の悪い環境の中で永年修練を積まれ、

加えて今回の栄えある国立劇場公演は支部にとつて一大事業であり資金面を始め準備かれこれ並々ならぬご苦労があつたと思いますが、仲宗根八重子支部長及び会員皆様が一体となつて実現に漕ぎつけてこられた熱意と取組に対しても満腔の敬意を表し心から拍手を送ります。

本部においては日頃から支部の動静には少からず関心を払つて来ましたが、今回の公演は最大の関心事でありそのご成功を念願しております。

会員の皆さんどうぞ平素の勉強の成果を今日の舞台で十二分に発揮され、齊唱に独唱に或は地謡に真剣に取組んでいただきまして素晴らしい成績をあげて下さい。

又、本公演に本部から不肖会長上地源照と副会長安田慶善・琉球箏曲保存会相談役宮城文の二先生が応援に駆けつけてきました。支部へのささやかなおくりものと確信しております。

おわりにこのようないまのある催しを進めてこられた関係者の労を多として関東支部のますますのご発展を祈念申し上げお祝いのことばといたします。

平成二年三月二十二日

プログラム

第一部 古典音楽

1 齊唱

こてい節

常盤なる松の
変ることないさめ
いつも春くれば
色どまさる

(歌意)

松は春夏秋冬をわ
かたず青々と茂り、
春がくればその緑
は常にいろどりを

増すばかりだ。人

間の生命もかくあ
りたいものである。

歌三味線

司会 矢野輝雄

仲宗根善久
高橋ツル

射場光晴
親川佐盛

仲宗根忠栄
仲宗根八重子

名嘉真郁夫
北村富美子

東仲嵩
仲宗根敬子

照屋芳
川澄美子

大宮伊礼
大城城秀

神谷ケイ
川崎育子

白取由美
白取由美

平良トミ
米須キヨ子

伊仲本潤
伊仲本潤

北村澄美子
北村澄美子

高城吉秀
高城吉秀

神谷ケイ
川崎育子

金城嘉良
金城嘉良

平良トミ
米須キヨ子

佐次田和貞吉
佐次田和貞吉

安次嶺ヨシ子
安次嶺ヨシ子

陸明美雄吉春文
陸明美雄吉春文

笛 博

金城武信

太鼓 博

国吉

笛 博

2 独唱

本嘉手久節

歌三味線 仲宗根敬子
箏 米須キヨ子

みる花に袖やひきよとめられて
月のぬきやがてどもどていきゆる

(歌意) 物言う花に袖引きとめられて時を忘れ、夜半の月が出て我にかえり、後髪を引かれながら帰路につく。

にゆはのいしこびれむざうつれてのぼる
にやへもいしこびれとさはあらな

(歌意) 伊野波のけわしい石ころ坂道を彼女とつれだつて行く。あゝ、この道がもつともつと遠くまで、どこまでも続いてほし。

3 独唱

本散山節

歌三味線 伊礼保信
箏 神谷ケイ子

ちかさたるがけてゆだんどもするな
梅の葉や花のにはひやしらぬ

(歌意) 何事にも時機というものがあり、近いからと油断していると梅の葉と花とが相会う事なく終る如く、時は二人の仲をとりもたない。

4 独唱

伊野波節

歌三味線 白取由美子
箏 土屋富美

5 独唱

宮城こはでさ節

歌三味線 高橋ツル
箏 照屋芳子

春や花盛り深山鶯の
匂忍でふきる声のしほらしや

(歌意) 春らんまん、鶯が忍び来てほがらかにさえずる声の何といじらしいことだ。心も明るく浮き立つばかりである。

第二部 古典音楽

① 齊唱

天川節

天川の池にあそぶおしどりの

おもひばのちぎりよそやしらぬ

(歌意) 天川の池に舞い遊ぶ仲むつましい
おしどりのような深い愛によつて
結ばれている二人の仲は他の誰も
知らない。

歌三味線

東 仲 仲 仲 高 仲 宗
嵩 根 根 橋 根 善
嵩 敬 根 八 忠 ツ
純 子 子 根 ル
子 栄 久

安上 金名宮伊仲
田地 城嘉城礼本
慶源 ◇ 吉清秀保潤
善照 春文夫信英

国 笛 宮 米川北土照 筝
吉 城 須 崎村屋屋
◇ キ 育澄富芳
博文 子恵子美子

百名節

2 独唱

歌三味線 大城盛進
箏 土屋富美

北谷真牛ぎやねが歌声うち出せば
なかべとぶ鳥もよどで聞きゆさ
なかべ飛鳥や聞きやらはもよたしや
かくれ思里が聞かばきやしゆが

(歌意) 北谷真牛の美声は空飛ぶ鳥もとまつ
て聞くほどだ。空飛ぶ鳥が聞くのは
いいがかくれ忍んでいる恋人がきい
たらどうしよう。

千瀬節

3 独唱

歌三味線 名嘉清文
箏 川崎育恵文

里とめばのよでいやで言ゆめおやど
冬の夜のよすが互に語やべら

(歌意) 恋しいあなたに何で宿を拒みましよう。どうぞ、冬の夜のよもすがら語り合いましょう。

子持節

4 独唱

歌三味線 高良照屋芳子
箏 照屋芳子

誰ようらめとて泣きゆが浜千鳥
逢はぬつれなさやわ身もともに

(歌意) 浜千鳥よ、お前は誰を恨み悲しんで
泣いているのか。愛するものを失なつ
て逢えなくなつたつれなさは今の私
も同じなのだ。

散山節

5 独唱

歌三味線 宮城秀子
箏 米須キヨ子夫

まことかや実かわ肝ほれぼれと
寝覚め驚の夢の心地

(歌意) この不幸な突発事は真実本当の事なのか。私はぼうぜんとし、寝覚の夢のようで信じられない。

6 独唱

仲風節

歌三味線 仲宗根忠栄
箏 照屋芳子

誠一つの浮世さめ

のよでい言葉のあはのおきゆが

(歌意) この世で人にとつて最も大切なものは誠の心である。誠心誠意の言葉がどうして相手に通じぬことがあろうか、必ず通ずる。

8 独唱

仲風節

歌三味線 仲宗根善久
箏 北村澄子

結ばらぬ片糸の

逢はぬ恨みとてつもる月日

(歌意) 結ばれない片糸のように、二人は相会うこともできないのを恨みながら、ただただ月日がつもつていくのがやるせなくいら立たしい。

7 独唱

述懐節

歌三味線 東北村澄子
箏 嵩純

拌でなつかしやまづせめてやすが
別かて面影のたたばきやすが

(歌意) お会いできて嬉しさのあまり涙がこぼれるのは仕方ないが、お別れして

どうしよう。
後に面影がたつてせつなくなつたら

9 独唱

一揚下出し述懐節

歌三味線 安田慶城
箏 文善

いな昔なるいあはれ語らたる
馴れしい言葉のくたぬうちに

(歌意) そんなに昔のことになつてしまつたか。思いどおりにならないことをなげき合つた言葉は朽ちもせずつい昨日のことのようだが、年月のたつのは早いものだ。

10

独唱

仲村渠節

歌三味線 上地源照
箏 宮城文照

仲村渠すばいどますだれはさげて

あにあらはもとまばしのでいまうれ

(歌意) 仲村渠家は、厳格な家ですが、裏戸にすだれを下げる場合は大丈夫ですから、それを確かめてから忍んでいらっしゃい。

11 独唱

赤田風節

歌三味線 安田慶善
箏 宮城文善

赤田門やつまととも

恋しみもの門やつまてくいるな

(歌意)

赤田門は別に通りぬけができるので閉まつてもかまわないが、恋しいみの門はいつたん閉まると通りぬけができないので願わくば閉まつてくれるな。

12

独唱

本花風節

歌三味線 仲宗根善久
箏 川崎育恵

みぐすくにのぼてうち招くあをぎ

またもめぐりきてむすぶごえん

(歌意) 船旅を見送るため三重城に登つて船上の人たちにうち招く扇は、再会の御縁をとり結ぶよすがなのである。

休憩

第二部 琉球舞踊

1 鶯の鳥

踊る人 東京竹富民俗芸能研究会

前新要

歌詞

- 一、綾羽ば生らしそうりぶいる羽ば産だしそうり
バスイヌトウルイヤウニガユナバスイ
- 二、正月のすいとうむてい元日の朝ばな
- 三、東かい飛ついけ太陽ばかめ舞いついけ

(鶯の鳥節)

2 黒島口説

踊る人 玉城流七扇会関りえ子琉球舞研究所

関りえ子 田中公子 新城久美
神山静子 諸見喜子 中村志津子

歌詞

- 一、さても替らん黒島や島ぬ流やかない形
祝う寿そぬ氣色

二、村ぬ有様見渡しば天ぬ四宿に形取りて
千代も豊かに民遊ぶ

三、節も違わん雨露ぬ恵み深きにくぬ御世
は老も若も諸共に

- 四、しんとう心は梅樓匂い引かさり袖衣
花ぬみやらび引きちりてい
- 五、眺む心は有明ぬ月に思いぞ照り勝る
誠浮世ぬしるしさみ

3 かせかけ

踊る人 餘音の会宮城洋子琉舞練場

名島美加江

歌詞

- 七読と廿讀かせ掛けて置きよて
里があけず羽御衣よすらね（千瀬節）
桟の糸かせに繰り返し返し
掛けておもかげのまさて立ちゆさ
かせかけて伽やならぬものさらめ
繰り返し返し思ど増しゆる（七尺節）

4 取 納 奉 行

踊る人 志扇雅び会

志 田 房 子

歌詞

- 一、いぐましゆる取納奉行何時やめせんが
頭の達今日や浜比嘉から御越し召せん
ハーミナオーヤツサ一
- 二、津堅ばんたに登て浜の先見れば
まくと取納奉行や御越し召せん
- 三、津堅浜着きたれば取納奉行の召言分に
今日やみやらび取て呉れよ津堅の頭の達
- 四、取納奉行のみやらびや誰がなゆが我ん頼
ま津堅神村祝女殿内の粒抜ぎカマドウ小
- 五、あふいな取納奉行の御前に寄せれゆし
- 胴衣も下袴も無えらぬものただ行きなゆみ
- 六、胴衣借らさは行きゆみ下袴借らさは行きゆみ
根殿内のはあぱあやあい持ちでむぬ
- 七、応やつさんしゅしど錢金や儲きる
んぱどーんぱどーすしや尻ど打たりんど

八、根殿内のはあぱあやみやらびの頭

引ち引ちそうてど御宿んかいそうて行ちゆん

九、御宿から戻い五人みやらびはい行逢て

言語れやしちゅて嬉しやさびん

十、取納奉行の御情や匂鬱付け香しや物
おれより他にも紙包みも数々有やびい たん

十一、御役人衆の仕情や持ちかき手布に指輪
わたかれ役人取り持つちやる詮もたたぬ

5 花 風

踊る人 餘音の会宮城洋子琉舞練場

宮 城 洋 子

歌詞

- 三重城に登て手布持上げれば
早船の慣や一目ど見ゆる（花風節）

朝夕さも御側拝み馴れ染めの
里や旅しめて如何す待ちゆが（下山し述懐節）

6

加那よー天川

踊る人 冠船流 川田功子の会

川田功子 江籠佐千代

歌詞

一、カナヨー面影の立てばヨーカナヨー宿に居らりらぬ
ハルヨーンゾヨーカナヨーシー
できやよ押連れてヨーカナヨー遊で忘ら
ハルヨーンゾヨーアスイバナチュウヤ

二、カナヨー貫木屋のあしゃげヨーカナヨー手巾布立てて
我が思る里にヨーカナヨーなさけ呉らな

三、カナヨーなさけ呉るばかりヨーカナヨー手巾呉て何しゆが
がまくくん締めるヨーカナヨーめんさ呉らな
ハルヨーンゾヨーイメーヌカジハリヨーフニ

四、カナヨー遊で忘ららぬヨーカナヨー踊て忘ららん
うみまして行きゆさヨーカナヨーあれが情
ハルヨーンゾヨーディアングワトウンケレ

(加那よー節)

天川の池やヨーアヌンゾヨーチカユティハナサナヤ
シタリヨーンゾハキヤイヤツサ
千尋も立ちゆら

おれよりも深く "

思てたばうれヨーアヌンゾヨーチカユティハナサナヤ
シタリヨーンゾハキヤイヤツササツサイヤサヌサ

(天川節)

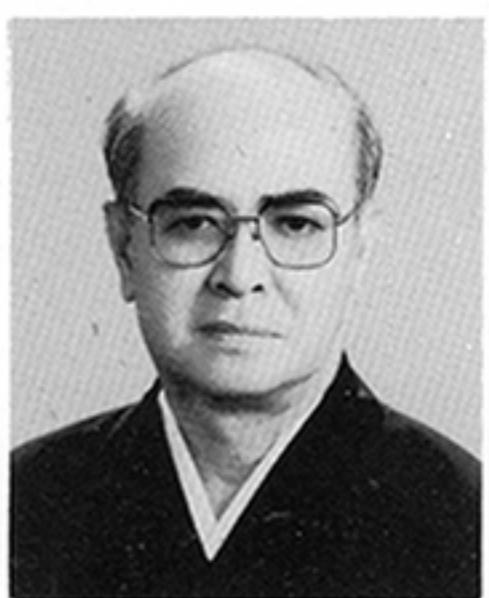
太鼓	笛	箏	歌三味線	舞
金城	国吉	川北照	高名宮仲	踊地謡
武信	博	崎村屋	良嘉城宗	
		育澄芳	清秀忠	
		恵子子	勉文夫栄久	

特別出演者の略歴



野村流古典音楽保存会関東支部長

仲宗根八重子



上地師範

上地師範と安田師範は野村流古典音楽保存会の会長と副会長の要職にあり、宮城文師範は琉球箏曲保存会の相談役で三師匠とも現役で活躍している著名な琉楽人である。県内外の公演活動や子弟の指導育成にその活動は広範でその全容を限られた紙面で記すことはできないが、三師の横顔と活躍の一端を申し述べ、紹介にかえたいと思います。

昭和二十九年野村流師範奥浜思樽先生に師事本格的に研究に取組み、同四十一年琉楽金賞、同四十三年師範免許取得、同五十八年湛水流教師免許を取得、同五十九年に沖縄タイムス芸術選賞大賞を受賞する。

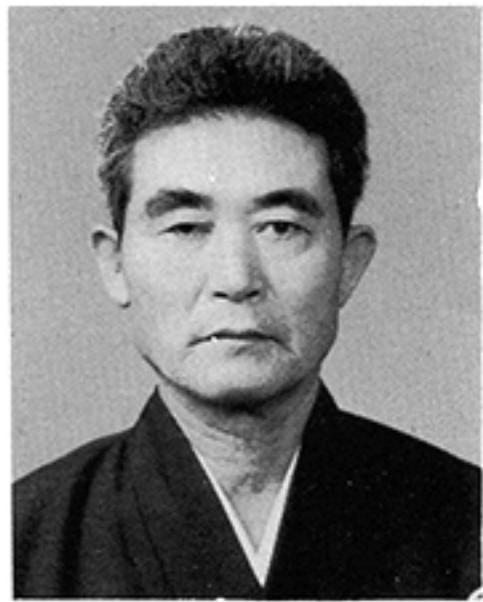
国立劇場琉舞公演、東宮御所琉舞披露など本土公演やハワイ・ロス公演等外国公演も多くに及んでいる。後継者養成にも熱心で師範、教師も多数輩出している。

現在、国指定重要無形文化財組踊技能保持者、県指定無形文化財沖縄伝統舞踊地謡（三線）技能保持者、沖縄県芸術祭実行委員（古典芸能）、野村流古典音楽保存会々長、沖縄タイムス芸能選賞選考員等の要職にある。

思い出のアルバム
第一回公演(62・6・23)より



全員(三味線・舞踊・箏・太鼓・笛・司会)で記念撮影



安田 師範

大正十三年旧読谷山村字渡慶次で出生。戦前村芝居で歌劇、舞踊、狂言劇などを経験して琉球音楽にひかれ、戦後出身地の神谷乗敬師匠から古典音楽の手ほどきを受ける。

昭和四十六年師範免許取得、同五十五年沖縄タイムス芸術選賞奨励賞を受賞する。

昭和五十二年ブラジル、アルゼンチン、ロスアンゼルス等外国公演に参加する。平成元年関西支部十五周年記念公演に参加する。

門弟から師範教師多数誕生している。

現在、県指定無形文化財沖縄伝統音楽野村流伝承者、野村流古典音楽保存会副会長、同中部支部長、沖縄タイムス芸術選賞古典音楽(三線)選考員等の要職にある。



宮城 師範

宜野湾市大謝名在住、昭和二年生。

昭和二十七年城間千鶴先生に師事し、同四十一年師範免許を取得、同四十三年箏曲最高賞受賞、同五十五年沖縄タイムス芸術選賞大賞を受賞する。

国立劇場公演、文化庁主催公演等多くの本土公演に参加、ブラジル等外国公演にも数多く参加する。子弟育成もめざましく、師範、教師が多数輩出している。

現在、国指定重要無形文化財組踊技能保持者、県指定無形文化財沖縄伝統舞踊地謡(箏)技能保持者、県指定無形文化財琉球箏曲技能保持者、琉球箏曲保存会相談役、沖縄タイムス芸術選賞選考員等の要職にある。



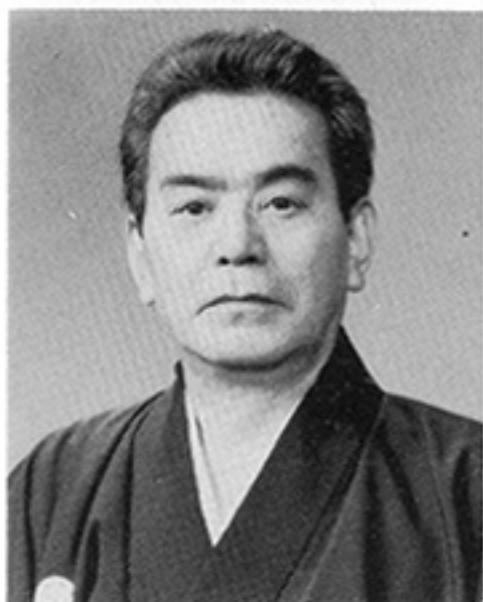
「よしゃいなう節」全員で幕閉め



「思い出の遊びナクニー」

出 演 者

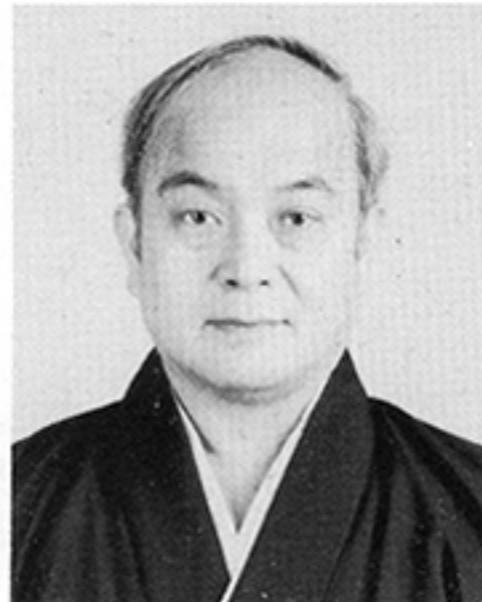
歌三味線



教師 仲宗根忠栄



教師 高橋ツル



師範 仲宗根善久



東嵩純



仲宗根敬子



教師 仲宗根八重子



宮城秀夫



伊礼保信



仲本潤英



高良勉



白取由美子



大城盛進



佐次田和雄



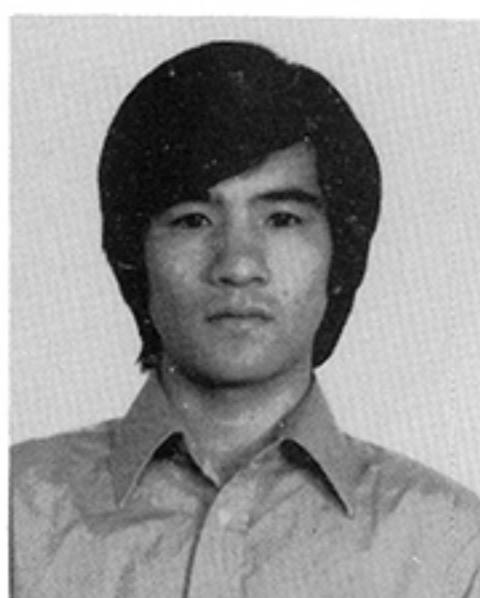
大城貞吉



金城吉春



名嘉清文



親川佐盛



射場光晴



名嘉真郁夫



陸明美



北村澄子



土屋富美



教師照屋芳子

筝



安次嶺ヨシ子



平良トミ子



川崎育恵



神谷ケイ子

贊助出演

笛



国吉 博

太鼓



金城 武信

箏



米須キヨ子

琉球舞踊

志扇雅び会



会主 志田房子

冠船流 川田功子の会



川田 功子



江籠佐千代



名島美加江



宮城 洋子

餘音の会

宮城洋子琉舞練場



田中公子



関りえ子

玉城流七扇会

関りえ子琉舞研究所



中村志津子



諸見喜子



神山静子



新城久美



司会 矢野輝雄



前新要

研究会

企画	仲宗根八重子
構成	仲宗根善久
舞台監督	平島東憲
大道具	国立劇場(演芸場舞台課)
照明	国立劇場(演芸場照明課)
音響	国立劇場(演芸場音響課)
制作協力	野村流古典音楽保存会関東支部
制作	志賀山葵
司会	矢野輝雄

主催 野村流古典音楽保存会

関東支部

支部長 仲宗根八重子

新宿区西新宿

〒160
七十九二二二一八〇四

電話〇三一三六八一〇七六四

研究生募集

野村流古典音楽研究所(保存会)

師範 仲宗根 善久

〒160 新宿区西新宿7-19-22-804

☎ 03-368-0764

教師 宮城 寛一

〒181 三鷹市上連雀5-29-19

☎ 0422-44-4744

教師 土屋 富美

〒154 世田谷区野沢1-29-13

☎ 03-422-0690

教師 高橋 ツル

〒125 葛飾区東水元2-34-23

☎ 03-600-7337

教師 玉城 ユキ

〒202 保谷市泉町5-8-2

☎ 0424-21-5793

教師 仲宗根 忠栄

〒121 足立区保木間3-22-17

☎ 03-883-5596

教師 仲宗根 八重子

〒369-19 秩父郡荒川村大字白久429

☎ 0494-54-2317

教師 照屋 芳子(箏曲)

〒171 豊島区要町3-3

☎ 03-957-0707

